

すわみつえ通信

No.142 2020年9月28日(月)

日本共産党鴻巣市議会議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かし いのちとくらしを守る市政に

9月市議会閉会となる



「少人数学級の前進を求める請願」の説明を行う、すわみつえ市議-本会議 9月1日

鴻巣市議会9月定例会が9月24日(木)に閉会しました。多くの情報提供と、「支援をいただいたことに感謝申し上げます。」報告を致します。

9月定例会の議案は、2019年度一般会計決算・特別会計決算・2020年度一般会計補正予算等21件です。また、議員提出議案が4件、市民提出請願が1件です。

日本共産党は議案21件のうち14件に賛成をし、7件に反対をしました。議員提出議案のうち1件は「核兵器禁止条約に参加することを求める意見書」で提出者として提案し、4件に賛成をしました。

また、新日本婦人の会提出の「国の責任による『20人程度学級』を展望した少人数学級の前進をもとめる請願」は紹介議員として賛成討論を行いました。結果は、執行部提案議案は全てが可決し、議員提出議案2件と請願が否決となりました。

日本共産党市議団は
2019年度一般会計
決算を認定せず

2019年度は低所得者ほど負担率が高い逆進性のある消費税増税が施行された年です。また、金融庁による「年金だけでは不足するから2000万円の老後資金が必要」という報告書が出ていたことが報道され、国民に衝撃を与えた年でもあります。

地方自治体の一番の役割は、「住民の福祉の増進に努める」ことです。

すわみつえ市議は日本共産党を代表して12点を指摘し、反対討論を行いました。主な点を掲載致します。

① 学校給食費値上げ

小学校「4100円から4500円」
中学校「4600円から5200円」の給食費の値上げは、子育て世代にさらなる負担を強いた。

② 「賑わい創出交流拠点事業基本計画策定委託費」

4200万円を執行

市役所入り口の埼玉県信用金庫跡地の土地・建物を購入しました。新たな場所ではなく、駅前商店街の空き店舗等を活用し、賑わいを創出する(一)を優先すべき。

③ マイナンバーカードの活用範囲を拡げる為のシステム「マイキープラットフォーム運用事業費」を執行

2019年度の証明書類の交付件数は、
● 窓口交付 119,571件
● 「コンビニ交付マイナンバーカード利用」 2,293件

* 今後、システム改修等のランニングコストは計り知れません。

④ 難病手当5000円から10000円に減額されたまま

減額されて5年経過しましたが、指定難病数が5倍に増えても受給者数は521人が539人にわずかに増えただけです。手当が通院の交通費や生活費の一部になることなど切実です。元に戻すべきです。

⑤ 「プレミアム付き商品券」12,650,024円の執行

「プレミアム付き商品券」は、消費税10%増税によって打撃を受ける低所得者(住民税非課税者)、子育て世帯(3才未満児)への支援として、市内の登録した商店や事業所で使用できるものです。商工会での販売のため、交通手段を持たない高齢者は購入ができませんでした。利用率は30%台でした。消費税増税の軽減策ですが劣多くして功無しです。

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

⑥通学区区域審議会で「妥当と決するに至らなかった」とする答申に反した行為

「通学区区域審議会運営事業」は前年度（平成30年度）に続いて、構成メンバーも変更になり、2回開催されました。

笠原小学校通学区区域に関するもので、鴻巣中央小学校に指定校変更することが妥当か、中学校進学先が妥当か、現在の安養寺地区は現状で妥当かの3点を審議しましたが、3点とも「妥当と決するに至らない」という答申でした。

この審議結果が尊重されずに、付帯意見の拡大解釈で行った、笠原小学校入学予定の保護者に対する教育委員会の行いは不当と言わざるを得ません。

市民から要望が寄せられました
赤見台第一小学校裏の遊歩道が
除草され、きれいになりました



除草前



除草後

俳句コーナー
冷や奴 コロナ・酷暑の
日々でした
瑠璃子

市議会ライブ中継を 観られた市民の方の 声をご紹介します

市議会の様子をライブで拝見しました。会計など難しいことはわかりませんが、市民生活を優先に話し合う市議会での討論内容が悲しく思えました。

少人数学級を求める請願が市民の団体から出されましたが、この請願に反対意見が出されていました。国が少人数学級の取り組みを始めているので、請願を出す必要はないというものでした。また、予算もないため、教員の増員も簡単ではなく、教室も増やすのが難しいという内容の反対意見でした。このような市議会だと思つと何だかとても残念です。

今、政府も少人数学級の段階的実現に向け、予算、教員増、教室増等の具体的課題を明らかにしています。

国が子どものための政策を進めるにあたって地方自治体から積極的に動くべきだと思います。

既に、近隣1 km四方の所に4箇所も100床規模の特養ホーム等があるのに、さらに市長の所有する土地(安養寺)に建設計画が？



「(仮称) 第2福富の郷」の近隣1 km四方の所には、4箇所(介護老人保健施設フラワーパレス、特別養護老人ホーム川里苑、特別養護老人ホーム翔裕園、特別養護老人ホーム第1福富の郷)も特養ホーム等があるのにもかかわらず、市長の所有する土地に建設を進めています。

社会福祉法人こうのとり福祉会は、この場所が市長の所有の土地であることを知りながら、特養ホーム建設地になぜこの場所を選んだのでしょうか。埼玉県に提出された「事業計画に関する説明会」では、『令和1年7月16日(火)18時30分～安養寺自治会集会所にて、1. 事業者挨拶 2. 建築概要及び建設工事について』地元説明会が開催されています。

しかしながら、地元の多くの方が知られていなかったようです。なぜ市長の土地に特養ホームが建設されるのか疑問が残ります。